

# ついのみなと 津井港

所在地：南あわじ市 津井



津井港

淡路瓦は、慶長 15 年（1610）ごろ、姫路城主の池田三左右衛門輝政が淡路島を拝領し、三男忠雄に岩屋城を修築、由良城を普請させた際、播州瓦の名工・清水理兵衛とその息子弥右衛門を呼び寄せ瓦を焼かせたのが起源であると言われています。

明治初期から一般民家への需要が急速に伸び、当時の津井地区では、総戸数 800 中 300 戸が瓦の仕事に関わる国内有数の産地に発展しました。その主な要因は、良質の安定した粘土が豊富にあったこと、江戸時代に築港された津井港から京阪神へ安価な海上輸送で運べたからでした。

津井港では、その昔、余った瓦を海に捨てていました。浜には、波にもまれ丸くなった瓦がたくさん打ち上げられており、現在も操業されている瓦工場とともに、地域の生業を感じさせる景観が広がっています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然がつくりだす景観
  - 歴史がつくりだす景観
  - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
  - 新しくつくりだす景観

## 【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原 IC より、県道 31 号を北上し、県道 25 号を西に、車で約 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図